

第123回エイズ動向委員会

委員長コメント

《平成22年第3四半期》

【概要】

1. 今回の報告期間は平成22年6月28日～平成22年9月26日までの約3か月
2. 新規HIV感染者報告数は257件（前回報告263件、前年同時期249件）で、過去9位
そのうち男性240件、女性17件で、男性は前回（248件）より減少、前年同時期（234件）より増加、女性は前回（15件）及び前年同時期（15件）より増加
3. 新規AIDS患者報告数は111件（前回報告129件、前年同時期96件）で、過去7位
そのうち男性103件、女性8件で、男性は前回（125件）より減少、前年同時期（89件）より増加、女性は前回（4件）及び前年同時期（7件）より増加
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は368件で過去10位
新規報告数全体に占めるAIDS患者の割合（ $111 \div 368$ ）は30.2%

【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが180件（全HIV感染者報告数の約70%）
そのうち176件が日本国籍男性
 - 異性間性的接触によるものが37件（全HIV感染者報告数の約14%）
そのうち男性28件、女性9件
 - 母子感染によるものが1件
 - 静注薬物によるものが0件（報告書上、静注薬物と同性間性的接触の両者にマークがあった例は2件）
 - 年齢別では、特に20～30代が多いが、40代および50歳以上も多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが50件（全AIDS患者報告数の約45%）
 - 異性間性的接触によるものが29件（全AIDS患者報告数の約26%）
そのうち男性24件、女性5件
 - 静注薬物によるものが0件
 - 年齢別では、特に30代以上に多いが50歳以上で増加が見られる。

【検査・相談件数の概況（平成22年7月～9月）】

1. 保健所におけるHIV抗体検査件数（速報値）は26,850件（前回報告25,136件、前年同時期26,645件）、自治体が実施する保健所以外の検査件数（速報値）は7,334件（前回報告6,555件、前年同時期6,253件）
2. 保健所等における相談件数（速報値）は43,735件（前回報告39,928、前年同時期43,052件）
前回報告および前年同時期に比べ、抗体検査件数・相談件数ともに増加

【献血の概況（平成22年1月～9月）】

1. 献血件数（速報値）は3,999,981件（前年速報値3,955,079件）
2. そのうちHIV抗体・核酸増幅検査陽性件数（速報値）は61件（前年速報値79件）
10万件当たりの陽性件数（速報値）は1.525件（前年速報値1.997件）

《まとめ》

1. HIV感染者、エイズ患者ともに、前回報告件数と比較して減少したものの、前年同時期と比較すると増加しており、増加傾向にあることには変わらない。
2. 自治体が実施するHIV抗体検査件数・保健所等における相談件数は、平成20年第4四半期をピークに減少傾向にあったが、今回（第3四半期）は検査普及週間のあった第2四半期よりも増加しており、減少傾向に一定の歯止めがかかったといえる。特に8月に検査・相談件数が増加しているが、これは8月に「四半期ベースではエイズ

患者の報告数が過去最大になった」ことなどが報道されたこと等が考えられる。

3. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数に占めるAIDS患者の割合は約3割と引き続き非常に高い。これは早期検査・早期治療の重要性を示している。
4. 前回に引き続き今回も母子感染が報告された。母子感染については、適切な感染防御対策を講じることで、感染率を1%以下にまで制御することが可能であることを、引き続き広く周知する必要がある。
5. 12月1日はWHOが定めた世界エイズデーである。厚生労働省や自治体等において、世界エイズデーに合わせたキャンペーンが予定されており、国民にはこの機会を通じてHIV／エイズに対して関心を持っていただきたい。